



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2020年12月13日号

編集 / 毎日新聞社販売局D・クリエーションセンター

論点

アベノミクスは成功か失敗か

16日(水) = オピニオン面



2012年12月に発足した第2次安倍政権は、デフレ脱却を最重要課題に掲げ、大胆な金融政策▽機動的な財政政策▽投資を喚起する成長戦略—の「3本の矢」からなる「アベノミクス」で日本経済

復活を目指しました。しかし、政権発足まもなく日銀総裁に就任した黒田東彦氏が「あらゆる政策を総動員し、2年程度を念頭に実現する」と強調した物価安定目標の2%はいまだに達成できていませ

ん。「3本の矢」を政権内部で支えた担い手に8年弱に及んだ経済政策を総括してもらい、アベノミクスの何が成功し、何が誤算だったのか考えてみます。

特集 ワイド

恐るべし中国のパンダ外交

16日(水) = 夕刊特集ワイド



中国への返還時期を巡って注目される東京・上野動物園のジャイアントパンダのシャンシャン=写真=。返還時期は来年5月末に延長されましたが、その愛くるしい姿を一目見ようと、パンダ舎前には連日、長い列がで

きています。そもそも中国の山奥に生息していたパンダが、どうして「世界のスーパースター」になったのでしょうか。中国による「パンダ外交」の歴史をひもとくと、パンダを取り巻く、驚きの事実が見えてきました。



排除する政治 ？ 学術会議問題を考える

17日(木)から14面

日本学術会議が推薦した新会員候補者のうち6人を菅義偉首相が「任命拒否」してから2カ月余り。異例の政治介入に対し、各界から批判の声が上がっています。

政権側は理由を明らかにせず、学術会議を政府から分離させることも検討されています。どう考えるか識者たちへ聞くシリーズです。第1回目は中島

岳志・東京工業大学教授II写真。「このうした手法はあつという間に国民に向けられると思つた方がいい」と警鐘を鳴らしています。

欧米で見直し相次ぐ美白

19日(土) = 暮らしナビ面



欧米の化粧品会社や製薬会社が、「美白」やそれに類する表現を使う製品の販売中止や、表記を見直す方針を相次いで打ち出しています。これらの製品は肌の色を実際に白くするのではなく、主にシミやムラなどの悩みに対

応するものですが、米国で人種差別への抗議の機運が高まる中、宣伝を通して「肌の色は白い方がいい」と主張しているとの誤解を招きかねないためです。こうした動きは、日本ではどう受け止められているのか探ります。

竹橋の窓辺から

編集後記



ラグビーを熱心に始めたのは高校時代。見始めたのは松尾雄治監督の社会人王者の新日鉄釜石が、大学では無敵の平尾誠二率いる同志社大と日本選手権決勝を3年連続で戦って勝利した。以来、好きはないポーツはたくさんありますが、ラグビーはあど「血が騒ぐ」競技はあどりませぬ。

全国高校ラグビー大会、通称「花園」が17日に開幕します。主催する弊社では100周年の開催を記念し、00のブロイド紙を特別に発行します。W杯戦士の秘蔵写真も満載です。ご期待ください。

(千代崎聖史)